
愛日記

萌愛春まによ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛日記

【ZPDF】

N1723U

【作者名】

萌愛春まにょ

【あらすじ】

高校生になる愛。

優柔不斷なうえにうじうじ系の性格。

でも恋はしている乙女な年頃？

熊乃高校での愛の成長を書いています。

この高校にはた一つくさんの不思議がありまして・・・（ふふ

* 出発* (前書き)

私の友達がかけてほしいらしく書きましたw
超超初心者ですが読んでくれたらうれしいなあ (*、*、*)

出発

?プロフイール?

名前 川嶋愛

性別 女

性格 優柔不斷

特技 走ること

ピアノをひくこと（音楽系はなんでもOK）

趣味 日記を書くこと

好きな人 佐藤嘉一

今日高校生になります。。。。

4月13日 快晴

((カキカキ

「よし!...! できた」

キラキラにでこつたファイル。

それにルーズリーフを1枚はさめる。

「よーっし、完璧だな！！『愛日記』の完成だ

そういうながら、高校に行く準備をする。

「あ！――書を忘れ――――！」

さつき書いたルーズリーフを取り出し

高校名 熊乃高校

と書き加えた

「ふウ！ あふねあふね！」

ファイルを机の引き出しに入れ、新しい制服に着替える。

準備が整い、玄関へと急ぐ。

一行できまーす！！！」

元気よく家に声をひびかせ、家を出る。

自転車に足をかけ、高校へととほす。

「余田はなにが君のかなあい??」

声をはずまやで高校に向かう。

彼女の名前は川嶋愛。

今日、
高校生になる。

変な人

がちゃッ

ここにできた自転車を自転車置き場に止める。

熊乃高校の前には大きい坂があり、その坂の下に自転車置き場がある。

とゆうことで、あたしは今坂を歩いてる途中。

季節は春。

坂の両端には桜の木がすきまなくずらりと立っている。

だから、今あたしが歩いている道は散った桜の花びらで真っピンク。ピンクの道を歩いているのと同じ。

「はあー じきじきするなあ

あこがれの高校生活。

充実した3年間になりそつだなあ。

気持ちをはずませていた。そのときーー。

ガツツン

「つたあああ！！！」

後頭部になにかが思いつきりぶつかつた。

「なにい！？！？」

半キレイで後をふりむく。

そこにはスクールバッグが落ちていた。

すると、笑顔で手をふっている男の人²がこっちに向かって歩いてきていたのが見えた。

誰！？

その人はあたしの前に立ち止った。

「誰？？あ！新入生かあ！」

何この人・・・知り合いだっけ？？

歳は・・・あたしの1、2歳上かな？

それにもしても、、、

あまりにもなれなれしい！？！？

人の頭にスクバぶつけたくせに・・・。

あやまりもしないなんて！！

「「めんねー、君ちつちやすぎて見えなかつた（笑）
あ。警戒しなくて大丈夫だよー。俺も新入生だし 名前は？」

同じ年！？

そう見えないんですけど・・・。

つか、ちつちやすぎつて・・・。

失礼なッ。

「えーっと、、「愛。川嶋愛つていつの」

「へえー。俺の名前は川田優希かわたゆうきつていうもんですー。
優希つて読んでね。愛つて呼ぶから。
どうぞよろしく」

「あ・・・うん。よろしく・・・」

つて！-！-

チョイ待て自分。

なに見ず知らずの人といきなり友達になつちやつてんの！？

共通点は新入生つてことだけだし・・・。

「 そおえばあー、 時間今何時だ? 」

え?

何時つて・・・・。

あ”あ”あ”あああああああー—————

「 何! ? 」

「 あと5分で入学式はじまつちやうつー」

「 はあ! ? 走れ! ! ! 」

今坂の中間にいる。

「 つからだッショは・・・なんとか間に合つーーはず。 」

あたしと優希は校門まで全力で走った。

なんか変な人と友達になつちやつたなあ・・・あたし。

サボリ

「ふいー」

やつとか屋上についた。

優希はあたしをかついで階段をダッシュしたのに

汗をかいてないみたい。

体力あるなー。

そう思つているなか優希が屋上の手すりに向かつて走り出した。

「おーい！…すっげえきれーだぞー！」

はいはいこと言つて優希の近くに言つたあたしも

息をのんだ。

「わあー！…きれえー」

ここからは街すべてが見渡せた。

綺麗なこの街は緑豊かで

空気がとても澄んでいる。

「あーーーあははっ」

「ん？ どしたー」

いきなり大きい声をあげたあたしに優希が聞いてくる。

「あれ！ あそこ見てっ！ あの森！ ！」

森の方向に私は指をさす。

「どれどれ〜」

優希が手をおでこにあて見始めた。

「見える？ あの屋根」

森の一番てつぺんほうにあたしは指をさした。

「おー。 見える見える。 なんだあれ？」

「あれはね、ツリーhaus！」

そう。 あたしと大好きな人が一緒に作ったツリーhaus。

大好きな人とのたつたひとつ思い出のツリーhaus。

「へー。 お前が作ったのか？」

「ただけど、あたしともう一人。 佐藤嘉一って人も一緒に作ったの」

「佐藤嘉一 い？？」

優希が不思議そつこに聞いてくる。

「うそー。」

「ビーの高校なの？」

優希が聞いてきた。

「うう答えればいいのかな。」

「えー・・・っとね」

「なになにー？ 秘密なの？？」

優希が怪しがってにじめにじめに聞いてきた。

「あー。うそ、そう！ 秘密ー」

笑顔になつて答えるあたし。

無理ないかな。あたし今ちゃんと笑えてるかな。

「お前の彼氏だつたりしてー。」

ドキッ

いつきに汗がでてくる。

「あー……うん。うう……」

「ん? どうしたー。やつさの威勢はどうこつたんだー」

優希が聞いてくる。

なんでもない。うう答えたこの二。

なんでもなくない。

この話題になるとこいつもいりつな。

うつむいてだまってしまつ

あたしの悪い癖。

もう5年もたつのか……あの日から。

暗くなつているあたしを察したのかな。

優希が大きい声で言った。

「おーー見ろよーむしむしなんかまた登るといあんぞー」

氣をづかってくれたのかな?

見かけによらず優しい人なのかもしれない。

優希のこるところにははじいがあり、そこを登つて

寝転がってる優希の隣に、じへ寝転がる。

まつすぐ見上げると

綺麗な青空が広がっていた。

「うわー。あれー

感動しているあたし。

「この街は、綺麗な街だな。落ちつく

優希が小さくつぶやいた。

「？ 優希ってもしかして引っ越しとかしてきたの？」

問い合わせると優希は少し寂しそうな顔をした。

「まあな・・・

この人もこんな顔をするんだ。

寂しそうで少し悲しそうな声。表情。

さつきまでの元気よさが嘘みたい。

前の街でなにがあったのかな？

この人にも悲しい過去があるのだろうか？

わたしみたいに。

もしかしたらあたしと優希は重なるのかもしれない。

どこかの歯車が・・・。

暗くなってしまった優希に明るい声であたしが話しかける。

「見て……この青い空……なにがあつても空をみるとあたしは嫌なこと全部忘れられるんだー」

わざとじぶんなかったかな。

気づかって難しい。

「やつか・・・」

優希が優しい笑顔で答えた。

かわいい顔をするんだなー。

といつても優希はたぶんイケメンだ。

背は180cm後半くらいかな。

くつくつの田んぼいまづ。

綺麗な茶色の髪の毛。

うすい唇。笑うとおひさまみたい。

世間でいうイケメン枠に

ヒットしている。

「綺麗な顔をして笑うんだね」

あたしが語つと優希は少し照れくわいくして

空を見上げた。

キーンコーン カーンコーン

「チャイムだ！入学式終わったんじゃない？」

「そつか。じゃ、行くか」

あたしたちは教室へと向かつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1723u/>

愛日記

2011年11月17日21時30分発行